

伝統・伝承・文化の共演

2008

宇城市伝統文化芸能まつり



①



②



④



⑤



⑥



③



⑦



⑧



⑨



宇土市の県重要無形文化財「宇土御獅子舞」



はちす保育園の園児による美里町(旧砥用町)の「建築踊り」

10月26日、松橋総合体育文化センター・ウイングまつばせで「第4回宇城市伝統文化芸能まつり」が開催されました。

これは、「宇城市伝統文化継承条例」の趣旨にのっとり、市内各地の民俗芸能・年中行事など無形民俗文化財を保存継承していくため開催されているもので今年で4回目。

今年は、宇土市の「宇土御獅子舞」や美里町(はちす保育園)の「建築踊り」、民謡歌手の田中祥子さんなどのゲスト出演も加わり、全12演目が披露されました。

①小川阿蘇神社獅子舞

文禄元年(1592年)、熊本城主・加藤清正公が朝鮮半島へ出兵したときのことです。陣中に毎晩、大虎が現れ、番兵を次々と襲ったため、家臣が太刀を切り見事な獅子を刻んで陣中に置いたところ、その晩から大虎が襲わなくなったそうです。清正公は大喜び、帰還して熊本市藤崎八幡宮で御礼大祭を開いたとき、これにあやかって魔よけに獅子舞を奉納し、その後小川阿蘇神社で奉納されるようになったと言われています。

②東松崎底井樋(そいび)太鼓踊り

天保12年(1841年)、東松崎では、干ばつから村民を救うため、弱冠21歳の松田喜七庄屋が、財産を投げ打って奔走し、猫の迫溜池の水を持つてくるサイホン式の水道管を大野川の底に設置することを決断。轟泉水奉行から伝授された門外不出の漆喰(しつくい)法を用い、不知火海の潮流と闘いながらの難工事を克服し、嘉永5年(1852年)に見事完成しました。

③舞鳴(もうしぎ)棒踊り

幕末の弘化2年(1845年)、薩摩の出水にある野田郷から伝承し、6人が一組で、4、5組の編成で踊ります。「半纏袴(はんてんはかま)に西櫛(あかねたすき)、手甲(てこ)すね当て、黄金鉢巻(きんぱんまき)と締め草鞋(わらじ)がけ、いぎ鎌倉と六尺棒をおつ取って三尺研鎌(さんしやくとがま)は冴えわたり、はやる太鼓を打ち鳴らし」という音頭取り唄の名調子に、「エイエイ サッサッサ ノコイ」と掛け声も勇ましく、打ち合う棒と鎌の音まさに戦国武士を鼓舞する勇壮な示現流棒踊りで、この先人の遺徳をしのぶため太鼓踊りが継承されています。

④上栗林雨乞い太鼓

平成15年3月、ふるさとコミュニティ活性化事業「おどんが村自慢」を機に有志が立ち上がり、地域が一体となった「上栗林雨乞い太鼓保存会」が発足しました。その昔、先人たちは干ばつ期に村を見下ろす山の中腹で神

仏に祈り、また互いに励ましあうように叩いたこの太鼓。現在では、子どもたちを中心に地区内の唐崎神社大祭奉納をはじめ、いろいろな催し物に参加しながら、この太鼓とともに先人たちの思いを継承していきます。

⑤仲町の茶わん鉢(松橋高校うきざしレオクラブ)

松橋高校は6年前、松橋に伝わる芸能の一つ「仲町の茶わん鉢」の復興、継承に取り組みしました。これは明治初期から松橋神社の秋祭りに仲町が奉納していた演芸の一つで、豊年を祝うお囃子(はやし)を背景に人形が皿を回します。圧巻は、最後に人形が「灯り灯籠」に変身するところです。その時の「あとはとーろー」というかけ声は、「どうぞ前をお通りください」の「とーろー」と、「灯りとーろー」の懸詞になっています。

⑥塚原神楽

十五柱神社のある塚原向組によって代々伝えられている神楽は、明治32年に城山神社の社司、園田光雄さん指導のもと、塚原向組の有志により始められました。現在も子ども神楽として伝承され、十五柱神社をはじめ近郷の神社の大祭で奉納されています。現在まで伝承されている舞は、13種類あります。

⑦南豊崎相撲取り踊り

保存会は、先代藤本フジエさんの代に南豊崎に始まりました。昭和12年から戦時中は一時中断し、昭和23年に復活。松橋駅落成記念日に上演されたほか、各家々のお祝いの時や南豊崎公民館落成式、老人施設慰問などで上演されています。

⑧松崎豊年餅つき踊り(豊川小学校6年1組)

この踊りは、日露戦争の戦地で、故郷の正月を想い、餅つきを真似した兵士たちの踊りが発祥です。その後、豊年を祝う秋祭りや結婚式でも踊られる、めでたい踊りとして伝承されています。男性役は、はっぴ姿で餅をつき、女性役は餅(かすり)の着物に赤いたすきで餅をこねる様子を表現します。昔、豊川地区の干拓工事のときにも、仕事の合間にこのおもしろおかしく楽しい踊りや歌が働く人々の心を癒していたと言われています。

⑨本村雨乞い太鼓

戸馳島は大きな川がなく、昔から干ばつに悩まされ、島民の水に対する思いは厚く、雨乞いの願いは高まってゆきました。村人が大きな太鼓を買求めると霊照寺八代住職密了師は2つの鬼の面を掘って村人に渡しました。そして、村人は夏になると毎年、舞い踊り、伝承しています。「昔から太鼓に託す雨一滴」、これは宇城市発足直後、統合された旧戸馳小学校の児童が、島の文化遺産をたずね歩き、作った町おこしのカルタの文です。